



担任の感想（甘口）

第1日目も2日目も、最初と最後の公演を見た。その感想を書いてみよう。

＊

まず、当たり前のことでありながらなかなか出来ないことは、時間通りに開演・終演することである。今回、それがキチッと出来ていたのは1年生として立派だと思う。受付や入退場を仕切る会場担当の人が、キチッと仕事をこなしていたからだろう。

音響や照明も、つまずくことなくスムーズに仕事を進めていた。一見単調に見える作業が一体となることで、舞台の演技がグッと引き立つわけで、これらを担当した人の丁寧な仕事が今回の劇を支えたといえるだろう。

配布されたパンフレットも、劇の内容だけでなく、この演劇を作ったクラス（13R）の様子がよく伝わるように工夫してあって、劇を見に来てくれた方々が、劇の世界に入り込みやすくなったのではないだろうか。中学生の観客に配慮した内容を工夫してあったこともなかなかである。

舞台・装飾も、演技と台詞で進めるこの劇の背景にぴったりの、シンプルで、それでいて人の動きにともなって、空間の広がり想像させるものになっていた。

＊

ダブルキャストの役者諸君は、それぞれ甲乙つけがたい熱演であった。

○もじゃ＝どちらも回を重ねるごとにそれらしくなって行って、それぞれに魅力的であったが、あえて甲乙をつけるなら、●●君の台詞が聞き取りやすかったように思う。台詞はやはり観客に届かないといけないので、来年はその辺も意識しよう。

○前園＝●●君はスポーツジムへ通う作家らしさがよく出ていたし、●●君は競馬にはまる作家らしさがよく出ていたが、両方を兼ね備えた演技ができればさらによかった。

○奥＝●●さんも●●さんも抜群の演技派で、もじゃとのやりとりがとてもよかった。台詞も上手だったし、これまた甲乙つけがたいが、あえてつければ、●●さんの「こわさ」が勝っていたかも（笑）。

○轟＝●●さんも●●さんも、演技以上に個性で演じたという感じで、それぞれ味が出ていてどちらもすばらしかった。もじゃとの息もピッタリで、この劇の喜劇性を支える大事な役をしっかりとこなしていた。

○脇汗＝脇汗というよりは、轟の作品の中で子ども役として殺される場面が私は大好きで、あの場面は笑わずにはいられない。その子ども役として、二人ともズバリであった。

○だいすけ＝話を展開させる大事な場面で登場する人物だったが、目立ちすぎることなくしっかり存在感をアピールしていた。ただし、二人とも、台詞をもう少し観客に届けることができたなら、さらによかっただろう。

○その他＝口上を受け持った●●君と●●君も、それぞれに工夫があってよかった。役者を兼ねていた分だけ、●●君の工夫が生きていた印象。

＊

今年から3年生は審査員制になった。審査員の講評を見ると、演技や踊りばかりでなく、証明や衣装、装飾、さらに入退場のスムーズさなども審査の対象になっていた。来年は、そういう点もさらに意識しよう。